

# 小樽開発建設部の地域共創の取組 ～令和6年度取組報告～

## 1. 小樽開発建設部地域連携課の新設と地域連携課キックオフシンポジウム

## 1) 小樽開発建設部地域連携課の新設(4月1日)

令和6年4月から第9期北海道総合開発計画(令和6年3月12日閣議決定)がスタートしました。第9期計画は、「多様な主体と『共に北海道の未来を創る』ことが計画全体を貫く思想であり、計画の進め方として「官民の垣根を越えた共創」を掲げています。この官民共創を進めるために、令和6年4月から各開発建設部に地域連携課が新設されました。

小樽開発建設部では、地域連携課が中心となり、多様な主体(市町村、住民、NPO、企業、教育機関等)や分野を越えて連携・協働し、地域課題の解決や新しい価値を生み出す『共創』に取り組みます。

## 2)地域連携課キックオフシンポジウム(4月16日開催)

小樽開発建設部では、新部署「地域連携課」を後志地域の皆様に広く知っていただく機会、また、後志地域での「官民の垣根を越えた共創」について地域の方々と一緒に考える機会として、シンポジウムを開催しました。

国土交通省  
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
北海道新幹線開業記念式典  
第1回開業記念セレモニー  
ウポポイ  
北海道新幹線開業記念式典  
令和 6 年 4 月 1 日  
小林 兼 先 政 並 部  
小樽開発建設部地域連携課の新設と  
キックオフシンポジウムの開催について

# 共に後志地域の未来を創る

広告

A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a suit and tie. He is holding a microphone and appears to be speaking or presenting.

第9期北海道総合開発計画と地域連携課の紹介

主催 北海道開発局小樽開発建設部  
問合先 地域連携課 Tel.0134-23-0581 メール hkd-ot-chiiki@gxb.mlit.go.jp

第9期北海道  
と共に後走

は、同じ目標で、民と見ええ方の原因でうまくいき、また例を挙げる。アビュージョン職員から訓練業者、販売業者、いたぐらなど、シヨツヨビング、うになりまつて、視点や垣根をなくして助けられ、官は、民間に渡す。民ときは、官は、必ずしも、保する。そういうふうに、物事が遠

北海道新聞 2024年6月20日 12・13面(小樽・後志版)

## 2. 小樽開発建設が取り組む地域共創と目指す姿

### ①所管するインフラの整備・管理を通じた地域共創

・私たちの中心業務です。インフラ整備・管理自体が地域課題の解決や地域の将来像実現を図るためのものですが、インフラ整備・管理にあたり後志各地で展開されている様々な取組と連携・協働することで、より多くの地域課題解決やより多くの新しい価値創造を目指します。

### ②地域関係者が一体となった連携協働地域づくり

・後志管内の市町村、商工団体、農林水産協同組合、観光協会、後志総合振興局、小樽開発建設部による後志地域づくり連携会議(岩宇・南後志ブロック会議、北後志ブロック会議、羊蹄山麓ブロック会議)を組織しています。  
・国の第9期計画と北海道の総合計画も踏まえ、連携会議において地域ビジョンを共有しその実現に向けて連携していきます。  
・このビジョン実現に向けて、民間事業者、教育機関、金融機関、NPO等、関係する主体が連携して取り組みます。

### ③後志地域を支える担い手の確保・育成の取組への協力

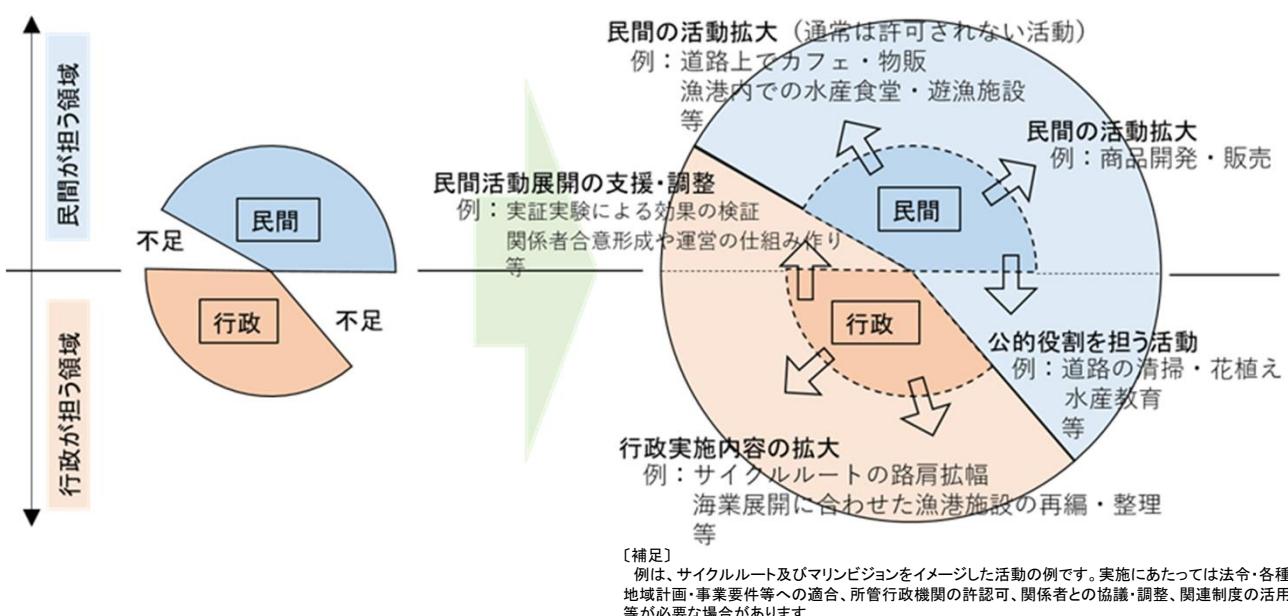
・地域づくり連携会議では、農水産業、観光、医療・福祉などあらゆる分野で担い手の確保・育成が課題になっているとの意見が多く出されました。後志各地で取り組まれている様々な担い手確保・育成の取組に協力します。

### ④後志各地の様々な取組への参加

・9期計画の中心的メッセージは、「多様な主体と『共に北海道の未来を創ること』です。地域の課題解決や新たな価値創造を目指した後志各地での様々な取組に参加し、『共に後志地域の未来を創る』ことに取り組みます。

## 地域共創で目指す姿

官と民の垣根を越えた連携・協働により、より多くの地域課題の解決やより大きな価値・新しい価値を生み出すことを目指します。



### 3. 令和6年度の取組

#### ①所管するインフラの整備・管理を通じた地域共創

・私たちの中心業務です。インフラ整備・管理自体が地域課題の解決や地域の将来像実現を図るためのものですが、インフラ整備・管理にあたり後志各地で展開されている様々な取組と連携・協働することで、より多くの地域課題解決やより多くの新しい価値創造を目指します。

##### 【従来からの連携】(令和6年度からの新しい活動)

- ・羊蹄ニセコサイクルルート(所管施設利用への協力:道路協力団体制度による収益活動)
- ・シーニックバイウェイ北海道「支笏洞爺ニセコルート」
- ・積丹地域マリンビジョン(技術での協力:陸上蓄養の施設・技術・運営の仕組み等の実証実験)

##### 【令和6年度から始まった新しい連携】

- ・みなとオアシス小樽

#### ○羊蹄ニセコサイクルルートとの連携・協働

＜羊蹄ニセコ自転車走行協議会（YNCA）構成員＞

町 村	蘭越町、二セコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、俱知安町
観光協会	(一社)蘭越町観光物産協会、(株)ニセコリゾート観光協会、真狩村観光協会、留寿都村観光協会、(一社)きもべつ観光協会、京極町観光協会、(一社)俱知安観光協会
商 工 会	俱知安商工会議所、羊蹄山麓商工会広域連携協議
金融機関	(株)北洋銀行俱知安支店、北海道信用金庫俱知安支店
農業協同組 合	JAようてい
バス会社	道南バス(株)、ニセコバス(株)
一般会員(法 人)	(有)マウンテンサイド、本田興業(株)、横閑建設工業(株)、(株)ニセコリアルエステート、(一社)北海道イベンツ、(株)ジェイロジング、(株)HTM、ようてい法律事務所、バケーションニセコ、お食事バーきむら、マイエコロッジ、シャレーアイビー、東急リゾーツ&ステイ(株)、(株)レモンコープレーション、トリフィートホテル&ポッドニセコ、ニセコワイス観光(株)ホワイトアイル、(合)銀色の旅人舎、(有)羊蹄ハイヤー、北海道ライオンズベンチャー

#### ▼サイクルルート



#### 道路管理者の取組

##### ▼案内看板・路面標示の整備



##### ▼路肩拡幅



#### YNCAの取組

##### ▼SNSでの情報発信



##### ▼交通マナー啓発



#### 道路管理者とYNCAが連携した取組

##### ▼除雪ステーションを活用した拠点整備



##### ▼交通マナー啓発のための実験の実施



シェア・ザ・ロードで推奨する自転車と自動車の間隔1.5mの妥当性を証明

## ○シーニックバイウェイ北海道「支笏洞爺ニセコルート」との連携・協働

ニセコ羊蹄エリア活動団体  
WAOニセコ羊蹄再発見の会、京極町景観を考える会、  
きもべつWAO等13団体

### ▼ビューポイントパーキング(VPP)での草刈・花植



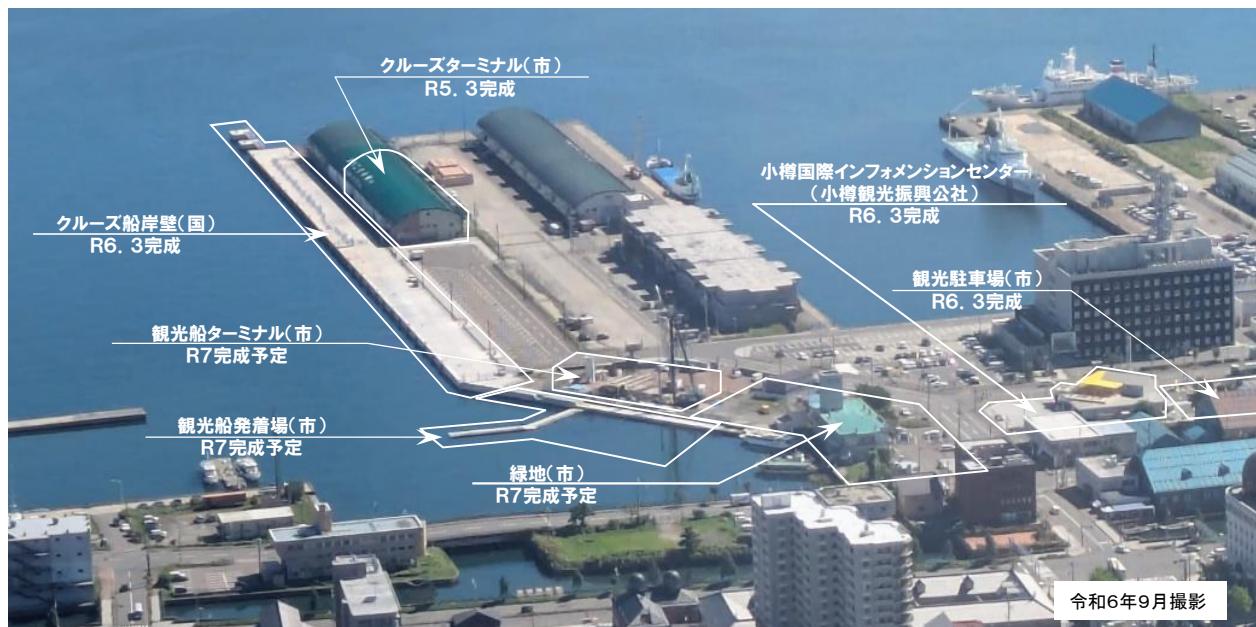
### ▼大学との連携によるVPPの魅力アッププロジェクト



## ○みなどアシス小樽

・小樽港第3号ふ頭では、官民が連携して、クルーズ振興やみなど観光としての賑わい創出を図ることを目的に再開発が進められており、令和5年3月にクルーズターミナル、令和6年3月にクルーズ船岸壁、小樽国際インフォメンションセンターが完成しました。

さらに、令和6年4月には「みなどアシス小樽」に登録され、小樽市、商工会議所、観光協会、観光振興公社や学校等で構成する運営協議会が組織され、新たな共創が始まりました。



大型クルーズ船は令和5年度まで、市中心部から2.5km離れた同港勝納ふ頭に限られていましたが、第3号ふ頭の再開発を受け、令和6年度はすべてのクルーズ船が第3号ふ頭に入港。

令和5年度の22隻から令和6年度は32隻に増加、乗客乗員数も過去最多の63,200人となりました。

第3号ふ頭の再開発で、乗船客が市中心部で観光を楽しむ新たな観光の拠点形成に取り組み、来訪者や市民の賑わい・交流による「港の元気」を大きく向上させたことが高く評価され「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」を受賞しました。

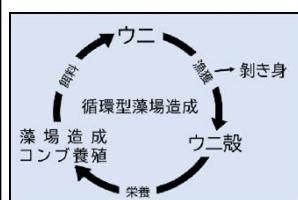


## ○積丹地区マリンビジョン

- ・積丹地域マリンビジョンのもと、積丹町、漁協、観光協会、商工会等の連携により、地域一丸となって産業振興に取り組んでいます。
- ・積丹方式によるウニ増殖を目指す循環型藻場造成の取組を若手漁師が主体的に実践しています。
- ウニ殻を肥料として藻場造成等を行うことで、ブルーカーボンを創出、Jブルークレジット®の認証・発行を受け、令和5年度から販売を開始しました。現在、ウニ殻肥料製造の民間による事業化を目指した官民連携での検討が進められています。
- これらの取組が評価され、数々の受賞歴を有しております、令和6年度は、「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール“大賞”、第11回ディスカバー農山漁村の宝“優秀賞”・“特別賞”を受賞しました。
- ・積丹町応援団と称する地域おこし企業で構成する「実のなる杜推進協議会」が平成28年に組織され、マリンビジョンが推進する官民共創体制が既に構築されています。また、令和5年には、神威岬灯台の観光資源化と維持管理に協力する「航路標識協力団体」として、第一管区海上保安本部から任命され、灯台の一般公開や歴史・文化を学ぶガイドツアーなどの取組も行われています。
- ・小樽開発建設部では、屋根施設の整備とともに、漁港施設としての陸上蓄養施設の必要性を検証するために、美國漁港を試験フィールドとして、東しゃこたん漁協と協力しながら、ウニの陸上蓄養について、実証実験や検討会を実施しています。
- 令和6年度はICTやIoTを導入した新しい技術を使った蓄養技術を検証しました。令和7年度は持続運営可能な手法について検討していきます。



美國漁港 令和4年8月撮影



循環型藻場造成「積丹方式」

- プロジェクト協議会メンバー
- ・東しゃこたん漁業協同組合
  - ・アメリカ・美しい海づくり協議会
  - ・余別・海HUGくみたい
  - ・美国地区浅海部会
  - ・積丹地区浅海部会
  - ・(株)積丹スピリット
  - ・積丹町

## ②地域関係者が一体となった連携協働地域づくり

- ・後志管内の市町村、商工団体、農林水産協同組合、観光協会、後志総合振興局、小樽開発建設部で後志地域づくり連携会議「以下、連携会議」を組織しています。
- ・令和6年度の連携会議では、国の第9期計画(令和6年3月閣議決定)と北海道の総合計画(令和6年7月策定)を踏まえて、後志地域の地域づくり方策について議論し、地域ビジョン(政策展開方針)を共有しました。
- ・このビジョン実現に向けて、民間事業者、教育機関、金融機関、NPO等、関係する主体が連携して取り組みます。

### 【令和6年度連携会議での議論を受けて始まった新しい取組】

- ・各行政機関が所有するデータを地域全体で共有・活用する取組(地域共創チーム) R7.3～

## 1)地域づくり連携会議での議論

### 【開催経過】

- ・令和6年7月30日 第1回連携会議(北後志ブロック)
  - 8月 6日 " (岩宇・南後志ブロック)
  - 8月 8日 " (羊蹄山麓ブロック)
- ・令和7年1月17日 第2回連携会議



後志地域づくり連携会議構成員

	北後志ブロック	岩宇・南後志ブロック	羊蹄山麓ブロック
1	小樽市長	島牧村長	蘭越町長
2	積丹町長	寿都町長	ニセコ町長
3	古平町長	黒松内町長	真狩村長
4	仁木町長	共和町長	留寿都村長
5	余市町長	岩内町長	喜茂別町長
6	赤井川村長	泊村長	京極町長
7	新おたる農業協同組合 代表理事組合長	神恵内村長	俱知安町長
8	東しゃこたん漁業協同組合 代表理事組合長	きょうわ農業協同組合 代表理事組合長	ようてい森林組合 代表理事組合長
9	小樽商工会議所 会頭	南しりべし森林組合 代表理事組合長	ようてい農業協同組合 代表理事組合長
10	(一社) 小樽観光協会 会長	寿都町漁業協同組合 代表理事組合長	俱知安商工会議所 会頭
11	後志総合振興局長	岩内商工会議所 会頭	(株) ニセコリゾート観光協会 代表取締役
12	小樽開発建設部長	岩内観光協会 会長	(一社) 俱知安観光協会 会長
13		後志総合振興局長	後志総合振興局長
14		小樽開発建設部長	小樽開発建設部長

連携会議では、国の北海道総合開発計画及び北海道の北海道総合計画が策定されたタイミングで「地域づくり推進ビジョン(地域重点プロジェクト)」を作成し、毎年度、進捗を共有してきました。

第9期北海道総合開発計画(令和6年3月閣議決定)及び新しい北海道総合計画(令和6年7月策定)を推進するにあたり、従前、「北海道開発局」と「北海道」が主体となり実施する地域重点プロジェクトをそれぞれ主体別の列挙し、今回から小樽開発建設部と後志総合振興局で一緒の地域重点プロジェクトを作成し、小樽開発建設部、後志総合振興局、地域づくり連携会議が一丸となって推進することとなりました。

## 2)後志地域の地域づくり推進ビジョン

### 農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト

担い手の確保や収益性の向上に向けた取組を推進し、農林水産業の持続的発展を図るとともに、ワインをはじめ豊富で良質な1次産品を活用した商品開発や情報発信などにより、農林水産物の高付加価値化やブランド化を促進します。

#### 地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ②ゼロカーボン北海道の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③地域の特色をかこたる多様な農林水産物の展開
- ④半導体・デジタル連携産業の集積をはじめ、本道経済をリードする産業の活性化

#### 重点的に取り組む施策

- 高品質で収益性の高い農産物の栽培及びICTを活用した省効率化技術の普及
  - ①スマート栽培などの収穫作業の導入推進
  - ②ICTを活用した農業の普及促進
  - ③農耕被害防止対策の推進
- 道内への収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積とワイン製造におけるカーボンニュートラルの取組の普及促進
  - ①栽培・製造・マーケティングの技術的向上
  - ②ワイン生産におけるカーボンニュートラルに係る製造内容の調査・研究及び各ワイナリーへの普及促進
- 水産資源の持続的利用や新たな養殖業の推進
  - ①クラウドセーミングなど新たな養殖の推進
  - ②水産資源の持続的利用による資源の循環の取組の推進
  - ③外水産物のブランド化など付加価値向上に向けた取組の推進
  - ④クラウドセーミングなど適切な資源管理の推進
  - ⑤水産資源の持続的利用による取組の推進
  - ⑥藻類生産などブルーカーボンに関する取組の推進
  - ⑦開拓機関と連携した密猟防止対策の推進
- 林業・木材産業(全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」等)の振興
  - ①地域の特性に応じた森林づくりの推進
  - ②森林の持続的利用による森林資源の循環の取組の推進
  - ③「ようついカラマツ」としてのブランド化の推進
  - ④鳥獣被害防止対策の推進
- 多様な農林水産業の担い手の育成・確保
  - ①担い手の育成・確保
- 多様な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大
  - ①特産品の発掘・普及向上
  - ②「ようついカラマツ」としてのブランド化の推進
  - ③地元食材のレストランでの利用促進など産地協働の推進
  - ④官民協働による国内外へのプロモーションの展開
- 農林水産活動団体の支援(わが村は美しくー北海道との連携)

### 地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりプロジェクト

自然景観や地域文化の組み合わせによるアドベンチャーラベルや、ワインをはじめとする多様な食資源を活かしたツーリズムの推進など、地域ならではの優れた地域資源を十分活用し、旅行者の滞在期間の延長や観光の通過率を高め、地域化を図り、持続可能な観光地域づくりを推進します。

#### 地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ⑤アドベンチャーラベルの推進など、多様な地域資源を活用した観光の振興
- ⑥地域固有の文化や歴史の継承・活用
- ⑦交流を支える基盤整備の促進

#### 重点的に取り組む施策

- 後志地域の自然景観や食資源を活用した広域観光の推進
  - ①農業・食資源など、次世代や食品加工を始める二世産業と観光事業者との連携による「食」を活かした魅力的な観光づくり
  - ②自然観察や食などの地域資源を活用した広域観光の推進
- ウィンタースポーツをはじめ、サイクリングツーリズム、ラフティングなどのアクティビティや地域の文化等の組み合わせによるアドベンチャーラベルの推進
  - ①インバウンド・流入体制の充実
  - ②西海岸の冬の風物詩としての雪景色の活用
  - ③自然観察や食などの資源を活用した冬のイベントの開催
- 地域の経済ドライバーストで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成
  - ①「ようついカラマツ」としてのブランド化の推進
  - ②商品造成や観光説明会プロモーションができる人材の育成
- 地域の魅力を引き出す道内のDMOとの連携
  - ①道内各地域の資源を活用したDMOとの連携
  - ②商品造成や観光説明会プロモーションの開催
  - ③DMOとの連携によるプロモーションや情報発信
- 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進
  - ①車両の充電・充気の充電場所(チャージステーション)の整備
  - ②シーニックハイウェイ北海道の整備
  - ③公共交通機関との連携による観光客の受け入れ
  - ④広域観光の推進
  - ⑤インバウンド流入体制の充実
  - ⑥自然・景観の安全と活用による質の高いコンテンツの提供
- みなとオアシスの取組推進

### 多様性を尊重し誰もが安全安心に暮らせる地域づくりプロジェクト

労働者の過年雇用化や若年者への地元企業の魅力発信等による人材の流出抑制、移住・定住施策と一体となった人材誘致、グローバル人材の育成や多文化共生の推進、地域公共交通の利用促進や転居確保などによる地域交通・物流ネットワークの確保、地域特化を踏まえた防災対策及び医療・福祉施策、再生エネルギーの活用や森林づくり、地域住民等のカーボンニュートラルに対する更なる意識醸成などを通じた環境と調和した地域づくり及び生産空間に住み続けられる環境づくりを推進します。

#### 地域のめざす姿の実現に向けた施策の方向

- ①誰が健康・安心して暮らせるまちづくりの推進
- ②ゼロカーボン北海道の実現に向けた、豊かな自然環境と調和する地域社会の構築
- ③交流を支える基盤整備の促進

#### 重点的に取り組む施策

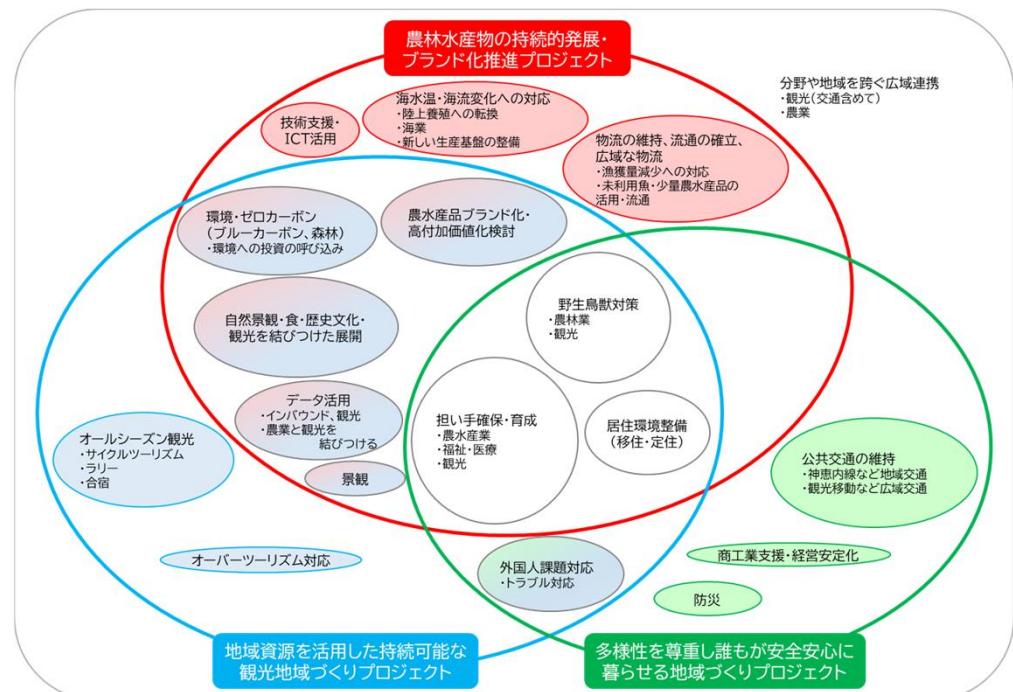
- 冬季に偏在する労働者の過年雇用化、学生と地元企業のマッチング支援や学生に対する情報提供を通じた地元定着の促進
  - ①若年者への就職相談会の実施
- 國際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材の育成、多文化共生の推進
  - ①地元企業の主導による国際化人材育成セミナーの開催
  - ②ShinBeshi留学などを通じたグローバル人材の育成
  - ③市町村と連携した多文化共生の市の提供
- 安全かつ安心に暮らせる医療・保健体制の整備
  - ①安心して子どもを育むための医療体制の充実
  - ②高齢者が「つまでも健康で暮らしたいの環境づくり
  - ③離島の方も安心して暮らす環境づくり
- 市町村と連携し、移住住定住策と一体となった人材誘致
  - ①就住フェアなど地元をPRする会場への出展等
  - ②SNS等による情報発信
- 地域公共交通ネットワークの維持支援
  - ①市町村や事業者と連携したバスの運行手帳の実施
  - ②公共交通利用促進のための広報活動
- 地域の特性を踏まえた防災対策の推進
  - ①地元関係機関の連携による防災体制の強化
  - ②地域住民等を対象とした防災力強化に係る地域学習会の開催
- 地域住民等のカーボンニュートラルに対する意識醸成
  - ①地域住民等を対象とした前講習会での啓発活動の実施

## 3)連携会議で出された課題・意見

連携会議では、様々な地域課題や意見が出されました。楕円のタテ径が大きいほど、多くの意見があつたことを示しています。

食、観光、暮らしを持続していく点、住み続けられるという観点での意見が多くありました。担い手の育成は、どの分野でも課題として多く出されました。

全体を通じて、分野や地域を越えて連携していくことへの意見が多くありました。



#### 4)連携の呼びかけ・期待が多かった取組テーマ・課題

連携の呼びかけ・期待が多かった取組テーマ・課題	
データ共有・活用の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インバウンドの動向を知るデータの取得・分析が必要。地域連携で考えていきたい。</li> <li>○関連: 分野や地域を跨いだ連携が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光は、観光客数よりも実際の消費にどう繋がっていくかが重要。観光客の属性や行き先などの分析を試行。</li> <li>・客観的なデータに基づいて戦略を練っていくこと、データをオープンにし、みんなで戦略的な取組を進めていくことが重要。</li> <li>・点から線の観光へ連携。小樽～余市・仁木～積丹など。</li> <li>・食・産業・歴史文化・観光を結びつけて展開。</li> <li>・新幹線見据え、町村連携で観光振興。</li> </ul> </li> </ul>
公共交通の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>○バス事業者撤退後の公共交通の維持 <ul style="list-style-type: none"> <li>・町村連携で代替交通を実施。</li> <li>・10年先を見据えた公共交通の検討も必要。</li> </ul> </li> </ul>
物流の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水産物の輸送手段の維持・確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲量が減少する中で流通をどう具体的に改革していくか。連携が必要。</li> <li>・未利用魚の活用。</li> </ul> </li> </ul>
外国人課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○飲食店などでトラブルが起きている。マナー啓発等を連携したい。</li> <li>○人口の5%が外国人。ゴミの捨て方が浸透せず近隣住民が苦労することもある。共存できる方法を連携して考えたい。</li> </ul>

#### 5)後志地域共創報告会(令和6年度地域づくり連携会議 取組報告)

令和6年度の地域づくり連携会議では、国との第9期北海道総合開発計画と、新しい北海道の北海道総合計画の両方がスタートしたことを受け、新しい地域づくりのビジョンと方策について議論して共有してきました。連携会議の中で、連携会議に出席した構成団体だけでなく、連携会議で共有してきたビジョンや方策、連携会議で出された意見や議論をメンバーや地域の方々と地域全体で共有していくことが共通認識となりました。

このようなことから、令和6年度の連携会議の取組を報告する機会として、連携会議の構成団体に所属するメンバー以外の方々や地域で取組をされている方にも広く参加できるよう初めて報告会として企画し、令和7年3月7日に開催しました。(会場約50人、Web約160人が参加)

後志地域共創報告会

令和7年3月7日(金) 13:30～15:00 (令和6年度地域づくり連携会議 取組報告)

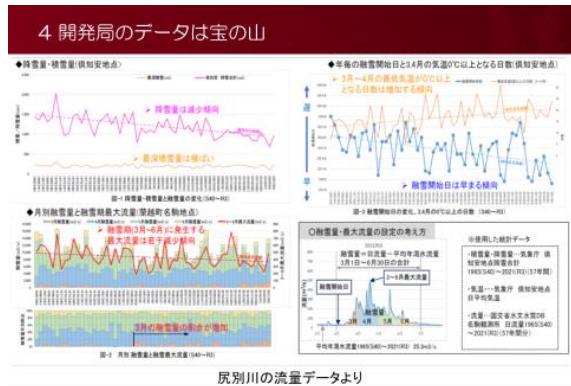
- ◆ 開会、開催趣旨説明  
小樽開発建設部長 遠藤 平
- ◆ 地域づくりの方策(政策展開方針)を進めるにあたって  
後志総合振興局 地域創生部長 金子 直広
- ◆ 地域づくり連携会議での主な意見紹介  
小樽開発建設部 港湾・農水担当次長 早川 鶏
- ◆ 地域共創を始めるにあたっての講演  
小樽商科大学副学長 江頭 進氏
- ◆ 地域共創の取組紹介  
・小樽開発建設部地域連携課長 賀川 智章  
・県知事会議事務局長 柳沢 利宏 氏  
・羊蹄二七〇自転車走行協議会 会長 渡邊 恵介 氏  
・積丹町水産業技術指導員 水鳥 純雄 氏



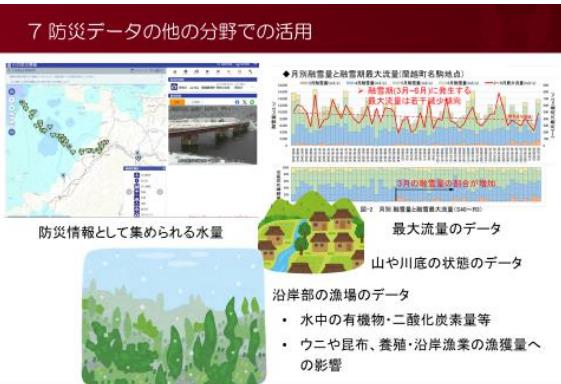


小樽商科大学の江頭副学長から、行政機関が所有するデータを地域全体で共有し、課題解決や新しい価値創造をかしていくことについてご講演していただきました。

はじめにEBPM(エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング)という手法により合理的な根拠に基づく政策形成がされていることが紹介されました。その後、各行政機関が所有する気象や河川流量などのデータは、長期間継続して取得しており、観光や一次産業でも大きな価値がある。本来の目的以外で使える可能性が多く、利用可能な形にしておくことが重要で、一つのデータだけでなく複数のデータを組み合わせて、目的にあった情報から統計処理し政策判断ができるよう、データの共有・活用していくことが今後の管内基幹産業の持続的な発展に大きく寄与するとお話ししていただき、本報告会において、後志地域における各種データを共有・活用する共創に取り組む「地域共創チーム」が動き始めました。



尻別川の流量データより



後志地域における地域共創の取組紹介として、産業人材育成にかかる产学官連携、羊蹄ニセコサイクルルート、積丹地域マリンビジョンについて、先進的な共創の取組について発表していただきました。

## 6)新しい地域共創の動き

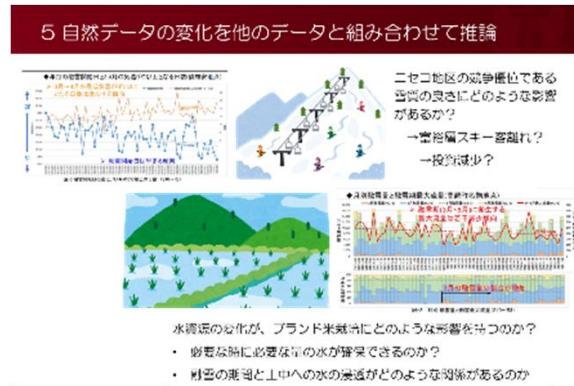
### ○後志地域の行政機関等が所有するデータを分野や官民を越えた共有・活用

令和6年4月に開催したキックオフシンポジウムにおいて、行政機関等が保有するデータを活用していくことについて提起されたほか、地域づくり連携会議で、データ共有・活用に関して連携していきたい意見が出されました。

後志地域の行政機関等では業務目的(インフラ管理、防災等)で各種データを観測して使用していますが、こうしたデータを食・観光等といった面で活用できる可能性があることから、データをチームで共有し分野を越えてデータ活用をしていく地域共創を開始しました。

【参画メンバー】地域づくり連携会議構成員、小樽商科大学、  
関心ある民間団体・事業者等

令和7年5月頃 データ共有会合(各機関のデータ持ち寄り)

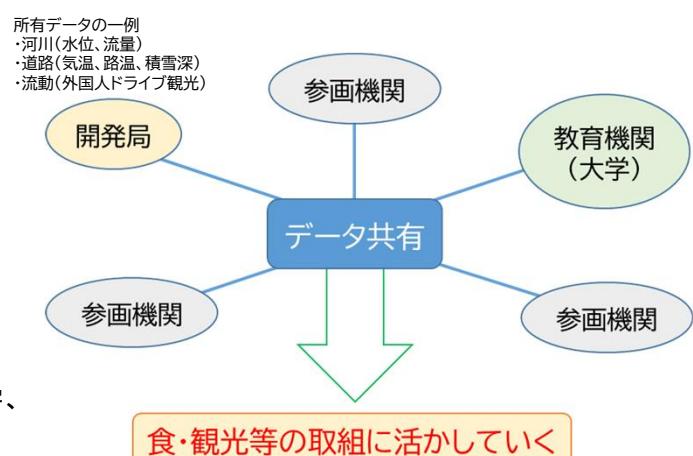


水資源の変化が、ブランド米栽培にどのような影響をもつのか?

- 必要な時に必要な水が確保できるのか?
- 開拓の進展と土中の水の浸透がどのような関係があるのか



- 北海道での移動手段としての乗用車
- 特に近年は外国人観光客のレンタカー移動が増加している
  - 雪道や凍結路の運転に慣れていないドライバーの増加
  - AIとの連携による比較的安全な経路の提案
  - ナビゲーションアプリの開発



### ○持続可能な公共交通、物流の維持に向けて

地域づくり連携会議において出された課題や意見を契機に、持続可能な公共交通や物流の維持について、勉強会を開催し、課題解決に協力していく共創を始めています。

### ③後志地域を支える担い手の確保・育成の取組への協力

・地域づくり連携会議では、農水産業、観光、医療・福祉などあらゆる分野で担い手の確保・育成が課題になっているとの意見が多く出されました。後志各地で取り組まれている様々な担い手確保・育成の取組に協力します。

#### 【令和6年度から始まった協力】

- ・俱知安地域での人材育成の産学官連携に参画 R6.8～
- ・建設業の担い手確保・育成に向けた協力(小樽建協、小樽建管、小樽開建による官民共創チーム) R7.3～

### ○俱知安地域での人材育成の産学官連携に参画

小樽開発建設部は、俱知安商工会議所が中心となって進めている「地域の産業を支える人材の育成」の産学官連携(俱知安商工会議所、俱知安町、北海道科学大学、北海道俱知安農業高等学校)に参画しています。



上記の一環として、令和7年度から農業土木の授業を始める俱知安農業高校を支えていくため、令和6年8月29日に同校との間で教育支援パートナーシップ協定を締結しました。

学校側の要請に応じ、実施内容や実施時期について小樽開建を挙げて協力していきます。

#### 支援の内容

授業等への出張講義(出前講座)、授業等への指導及び助言、所管施設及び職場を現場見学会や体験会等の教育の場として提供、キャリア教育に関する支援、学校教育と後志各地の地域づくり活動との連携支援、インターンシップ実習の受入れ



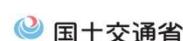
### ○後志地域の建設業の担い手確保・育成に向けた協力

#### (小樽建協、小樽建管、小樽開建による官民共創チーム) R7.3～

- ・小樽建設協会、小樽開建、小樽建管の三者で、令和7年3月に官民共創チームを結成しました。
- ・活動の第1弾として、民間建設会社が行う採用広報への協力などの取組を始めます。

別紙1

#### 採用広報への協力

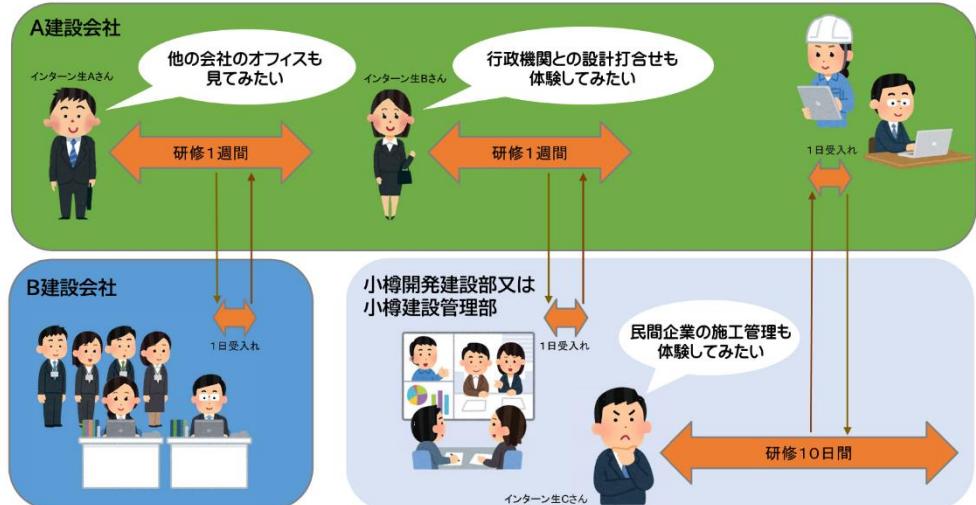


- 学生に「この会社で働きたい」と思ってもらえるようなPR手法を提案したり、そのために必要な素材を提供することにより、民間建設会社の採用広報の充実に向けて協力します。
- 例えば、行政機関が保有するデータや写真等を提供することにより、民間建設会社ホームページの採用情報ページや施工実績ページを以下のように改善するお手伝いをします。



- インターンシップの受入れに際し、本人の希望に応じて民間企業間、又は民間企業と行政機関との間で「相互乗り入れ」を行うことにより、民間と行政の仕事の内容やその関係性を理解してもらいます。
  - 例えば、インターン生を以下のように一時的に受け入れることにより仕事の内容を広く体験してもらうとともに、学生に就職先の選択肢を増やすことを目指します。

## ■イメージ図



## 後志地域のインフラを学ぶ素材の共同作成

- 小樽建設協会に対して後志地域のインフラを学ぶ事業概要資料や写真などを提供することにより、「民間建設会社が生活基盤を支えていること、その大きさ」をPRするお手伝いをします。
  - また、これらを素材に小樽建設協会、小樽建設管理部及び小樽開発建設部が共同作成したパネルを用いて後志管内の公共施設やイベントでパネル展を開催するなどして、建設業の魅力を発信します。



#### ④後志各地の様々な取組への参加

・9期計画の中心的メッセージは、「多様な主体と『共に北海道の未来を創ること』です。地域の課題解決や新たな価値創造を目指した後志各地での様々な取組に参加し、『共に後志地域の未来を創る』ことに取り組みます。

## 【令和6年度に参加した活動例】

- ・民間旅行会社主催のインフラツアへの協力(見学案内・解説)
  - ・国際自転車レース「ニセコクラシック」への協力(広報・情報発信)
  - ・小樽アニメパーティ2024への協力(除雪機械展示・技術説明)

#### ○民間旅行会社主催のインフラツアへの協力

(令和6年6月・7月)

余市～ニセコ間で建設中の自動車専用道路の工事現場（掘削工事中のトンネル内）に案内し、工事解説を行いました。



#### ○国際自転車レース「ニセコクラシック」への協力

(令和6年6月)

開催に伴う通行規制情報を周辺国道の道路情報板等で提供しました。



### ○小樽アニメパーティ2024への協力(令和6年9月)

除雪車両を展示して、体験試乗や除雪技術の紹介を行いました。



共に北海道の未来を創る  
第9期北海道総合開発計画

国土交通省  
北海道開発局 小樽開発建設部  
〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15番5号

【2025(令和7)年4月発行】